

## 第十九章 足柄上郡

### 一、被害状況と應急措置

俄然、西方に當りて大音響あり。之と共に激震は突發して、松田町の如きは、同時に家屋の殆んご全部を全半潰ならしめたり。他の町村にありても、震度甚だしく、山崩れは各所に起り、耕地、水路、道路、堤防等の破壊等、被害の甚大なること言語に絶したり。就中災害の最も甚だしかりしは、曾我村大字上曾我にして、土地の陥没甚だしく、従つて家屋及土地の被害甚だしきものあり。その被害の最も甚大なりしは、赤土地方にして、割合に少なかりし地方は、砂礫を混ぜる土地なり。本郡中此種に屬するものは、酒勾川以西の地なり。尙、酒勾川以東にありても、此土質に類せるは、松田町大字松田惣領の内町屋及松田町神山金田村なごにして、被害少なく、全潰又は半潰の家屋は僅少なりき。以上の外、中井村字境と中郡南秦野村今泉との境界に於て約三町歩の陥落地を出せり。其深さ約五十尺、土質は赤土なりき。此外、前記境地内に、尙一箇所約一町歩深さ四五十尺の陥落を出現せり。これら郡被害地に於ける町村道の崩壊は、八萬九千六百九十四間、此損害見積約五十三萬圓を算す。橋梁の損害、木造の落橋五百箇所、此損害見積約二十二萬圓、石造の落橋三百十七箇所、此損害見積約十五萬圓を計上せらる。

猶郡下の罹災人口被害世帯數を示せば、次表の如し。

### 罹災住屋非住屋損害

寄村	町村名	總戸數	人			住屋			非住屋			學校	役場	損害
			死	重	輕	全燒	全潰	半潰	破損	全潰	半潰			
三三	ヒ	二	一	一	二四	九三	六〇	一一	二六	四	二五	半潰	半潰	110,600

第十九章 足柄上郡

岡本村	櫻井村	吉田島村	酒田村	福澤村	南足柄村	北足柄村	三保村	清水組合	共和村	川村	松田町	金田村	曾我村	山田組合	中井村	上秦野村
五七〇	二五三	二三八	三三九	四四九	六八八	三三五	二六四	三五三	一一四	一一二五	七二九	三七	四八〇	三五二	八〇七	三九九
三一	四	九	三	四	四	二	七	八	二	二	一三	三三	四三	二二	二八	九
一〇				五	三			二	一	二	五				九	二
七				一五	五	三		二		二	五			二	八	三
二	一	一									一	一	二			
二四七	八四	二	一六	七五	六〇	五三	七	四五	一五	一三七	一三〇	一一三	二三八	一三六	二〇三	七二
三三三	一六九	三七	五三	一四〇	一三八	一九一	八六	二四六	一〇五	〇〇〇	三五五	一八二	四六	二〇一	二七二	二〇九
	五〇	四六	六二	四〇	一〇〇	四〇	五〇	五〇	四	一〇	五〇	一〇	三〇	一〇	一六〇	五〇
三七	七	二	四	一〇	一四	四		二		二八	四三	三〇	二〇	一六	一七	一四
五五	二八	二三	四	三〇	六五	二二		二	一	八七	四七	二七		三八	七四	五〇
一五		一五	二	五〇	二九	一九		一三	一〇	五八	一〇六	三〇	四九〇	一七六	一五〇	五七
四六	一八〇	五〇	五	一五〇	一〇六	三元	二	六五	五三	一九	二六六		二〇	一五八	二〇〇	二〇
半潰	全潰	"	"	半潰	"	"	"	"	"	"	"	半潰	全潰	半潰	全潰	"
全潰	半潰	異常ナシ	少	"	半潰	全潰	半潰	全潰	半潰	全潰	"	"	"	"	"	"
四三六、四〇〇	二九七、九〇〇	六五、四〇〇	九五、八〇〇	二五、五〇〇	三三、六〇〇	一四八、九〇〇	四九、八〇〇	一五一、三〇〇	二七六、二〇〇	六〇七、二〇〇	六一九、八〇〇	二二七、四〇〇	七四四、二〇〇	三五二、二〇〇	四七八、五〇〇	二五、〇〇〇

被害の甚大なる斯の如くなりしが、當時交通機關杜絶の爲め、郡は松田町以外の被害状況を知る事能はず、然り

こ雖も、應急處置の寸時も遅延するを許さざる状況にありしを以て、郡は直に救護班を編成して、適當の處置を講ずるに至れり。

災後、直ちに派遣せる災害視察吏員の報告によりて、交通最も不便なる山間の部落を除く外、各町村とも大體食糧に不足を來す患ひのなきこと判明せるに反し、小屋掛に要する板針金、亞鉛板、釘等、及び燈火用としての蠟燭、石油、燐寸類の缺乏甚だしきものあるを知り、所員及郡農會役員數名を隣縣靜岡縣に急派して、豫定の數量を購入せしむることとせり。元來、本郡は、縣廳を去る遠距離の地にありて、晝夜兼行するも尙二晝夜を要するに、折から不穩の流言蜚語あり、歸還は頗る困難と察せられしにより、旅程に於ても安全な靜岡縣に派遣せしめたるなりき。然も、當時餘震猶止むべくもあらず、加ふるに殆んど道なき山路を越えて靜岡縣に至るも亦容易の事にあらず、途中危険を冒すこと數度の旅も、恙なく目的地に達して、漸く所要の數量を調べ、此度は、清水港より海路小田原或は國府津に陸揚の上、青年團、在郷軍人團員の義務的勞資の力に依りて、行程三里の破損道路を運搬せしめ、更に被害の程度に應じて、之を町村に配給したりき。

之と前後して、縣よりの寄贈品、或は府縣又は救護事務局よりの配給品續々として到着したれど、汽車不通の爲、何れも前記の運搬方法を繰返して配給を了したり。此間、郡役所吏員は、數名づつ交互に小田原又は國府津に出張して、陸揚げの監視に當り、晝夜不休の事務に従事したり。

之より先、三日の午後より、何處よりともなく、鮮人襲來の風説頻りに傳はり、各町村共、これに脅かされ、青年團、在郷軍人會、消防組等、結束して、各自、竹槍又は銃器刀槍類を携帶して要所を警戒し、中には老幼婦女を避難せしむるものさへあるに至り、人心恟々、各自の業務を放擲して徒に奔命に疲るゝの状態を來したりしが、郡の力にして之を收拾するの手段なきに至りしを以て、己むを得ず、靜岡歩兵第三十四聯隊に狀況を具して出兵を求めし結果

翌々日即ち九月五日に至りて一個中隊の派遣を見、所在町村に之が分遣せらるゝや、人心漸く安定に赴くに至れり。越えて六日、戒嚴令の發布を見たりしを以て、郡は、直に之を一般町村に布告したりしが、其執行の期に入りて、全く郡民は安穩平靜に歸したりき。

軍隊救護班の派遣に、郡の最も感謝したりしことは、それら精神的方面の安定のみならず、震災と同時に最も苦慮されし傷病者の救護の完全になされし事にてありき。各町村には、何れも平時より相當の醫師あり、藥局ありて、一般の需要事かかざりしが、地震はこれら藥局の大部分を破壊せしため、忽ち藥品の缺乏を告げ、震災後の傷病者には、已むなく一時間に合せの手當を與へざるべからざるに至れり。幸ひにも、軍隊救護班の巡回活動によりて、之等も忽ち補給せられ、各町村在住の醫師等も、藥品、衛生材料の下付を受くるを得て、救護上の緩和をはかり、後顧の憂なく、郡内傷病者に完全の救護を與へることを得たりき。

災後、これら物資の供給を圓滑にするには、交通通信の障害を退け、土木の應急工事を施さざるべからざりしを以て、郡は、又、青年團、在郷軍人會の力を、此方面の復舊に善導し、通信の運搬につきては、驛傳の方法を設けて、郡町村役場の文書印刷物を順次傳送せしめたり。

## 二、各方面に及ぼしたる被害狀況

(1) 商工業方面 商業方面に就ては特記すべき事なきも、郡内所在の銀行は、震災後何れも業務を停止したりしを以て、金融全く杜絶し、預金者の不便少からざりき。仍つて、郡は當業者を郡衙に召集して協議を重ね、開店を懇憑したりしが、開店せば必ず預金の引出殺到するを虞れて、容易に其議の纏まるべくもあらず、漸くにして、或程度を限りて引出に應ずるの法を講ぜしめたりしに、事實は豫想に反し、差引預入金の多きを見るの傾向を示せり。

工場方面に就いては。人造絹絲製造所の燒失、富士瓦斯紡績會社の發電所なき全潰して、相當の損害を生じたり。  
 (2) 農業方面の被害耕地は、田の崩潰四百町、此損害高八十萬圓、流失二百町、此損害百四十萬圓、畑の崩潰三百三十町、此損害三百三十萬圓、流失七十町、此損害二百十萬圓、この町村別損害は表示の如く、其他柑橘類の被害も輕微ならざりき。

農業方面被害表

町村名	田		畑		損害見積額
	崩潰反別	流失反別	崩潰反別	流失反別	
寄村	一五	七	三〇	六	一七、〇〇〇
上秦野村	二五	一三	二〇	四	一三、〇〇〇
中井村	三〇	一五	三〇	五	二〇、〇〇〇
山田組合	五	三	二〇	四	六、〇〇〇
曾我村	四〇	一〇	五	一	三、八〇〇
金田村	三〇	一五	一	一	一六、〇〇〇
松田村	二五	二	三〇	六	一八、〇〇〇
川村	二五	一三	三〇	六	一八、〇〇〇
共和村	五	三	二〇	四	六、〇〇〇
清水組合	一〇	五	一〇	四	八、〇〇〇

計	岡本村	櫻井村	吉田島村	酒田村	福澤村	南足柄村	北足柄村	三保村
四〇〇	三〇	二五	二三	二五	二五	三〇	二五	七
二〇〇	一四	一三	一三	一三	一五	一三	一四	
三三	三〇			一五	三〇	四〇	一〇	
六九	九	十			三	六	八	二
二、七〇八、〇〇〇	二二六、〇〇〇	一三四、〇〇〇	一三〇、〇〇〇	一三四、〇〇〇	一七七、〇〇〇	二二三、〇〇〇	一九八、〇〇〇	五八、〇〇〇

(3) 蠶業方面の損害は、秋蠶の減収による損害十萬圓、桑園の崩潰反別三百町歩の見積損害額二萬圓にして、この町村別損害次表の如し。

蠶業方面被害表

寄村	上村	中村	秋蠶ノ損害額	桑園崩潰反別	損害額
七〇〇	一〇〇	一、一〇〇	四	反	九二〇
野村	秦野村	井村		一〇〇	七〇〇
				一、一〇	九一〇

(4) 漁業方面 震災の爲め、林野崩潰後、大降雨ありし爲め、土砂を押し出し、河川の土砂に埋められたる結果、本郡漁業の唯一とも言ふべき酒匂川流域の鮎漁を全滅の状態に陥らしめたり。此町村別見積損害は次の如し。

共	川	松	金	曾	山	共	川	松	金	曾	山
和						和					
村	村	村	村	村	村	村	村	村	村	村	村
三〇〇	二、八〇〇	四〇〇	五〇〇	一、一〇〇	七〇〇	二〇〇	二、八〇〇	四〇〇	五〇〇	一、一〇〇	七〇〇
100	271	130	110	110	100	100	271	130	110	110	100
三〇〇	五、〇〇〇	五、〇〇〇	五、〇〇〇	五、〇〇〇	三、〇〇〇	七〇〇	一、八九七	九二〇	八四〇	九一〇	一、四〇〇

共	川	松	金	曾	山	中	上	寄	損	害	見	積	額
和													
村	村	村	村	村	村	村	村	村					
三〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	五〇〇	三〇〇				一〇〇					四
岡	櫻	吉	酒	福	南	北	三	清	損	害	見	積	額
本	井	田	田	澤	足	足	保	水					
村	村	村	村	村	村	村	村	村					
三〇〇	五〇〇	五〇〇	五〇〇	五〇〇	三〇〇	三〇〇	三〇〇	八〇〇					四

五、山林方面被害状況

一般山林の樹種は、杉材、薪炭材を主とせり。殊に、三保村方面の産出は多額なりしが、震災にて、此方面の雑木林の多くの崩潰を見たるため、本郡主要産物の一たる、木炭の産額に大影響を來せり。

なほ、各町村山林の崩潰面積を點綴すると、二千町歩を算し、其損害見積額二百萬圓に上れり。

山林方面被害表

寄村	上秦野村	中井村	山田組合	曾我村	金田村	松田町	川村	共和村
反別	二、五九	一〇〇	—	三六八	一五〇	二、〇〇〇	—	二、八三二
損害額	二四、六三	五〇、〇〇〇	—	八、二六九	二〇、七〇〇	一六〇、四〇〇	—	二二、七四三
清水組合	三保村	北足柄村	南足柄村	福澤村	酒田村	吉田島村	櫻井村	岡本村
反別	二、〇〇〇	二、五〇〇	七六〇	六六〇	三〇〇	—	—	五、一三六
損害額	一〇〇、〇〇〇	一一五、〇〇〇	一五〇、〇〇〇	一一一、〇〇〇	五五、〇〇〇	—	—	二二、三四〇

六、土木方面被害状況



(一) 震災に因る水路の潰裂

郡市町村	水路名	潰裂ノ箇所延長	損害ノ程度	復舊見込額又ハ復舊費額	損害ノ状況
足柄上郡 南足柄村	川入堰	三十町	全潰	二萬圓	水路全部埋没シ 新設セリ
全川 村	松田堰	六十町	全潰	五萬圓	全上

本郡の用水路は、殆んど全部破壊されたるを以て、國縣の補助を受け、各村毎に耕地整理組合を設立し、耕地の整理と共に、水路を新設し、復舊に励め居れり。前掲二水路の外、他に水路の破壊されたるもの多々あるも、皆小部分なるを以て之を掲げず。今、耕地整理を施行し居るものを挙げれば左の如し。

耕地整理ノ名稱	地區面積	復舊豫算	耕地整理ノ名稱	地區面積	復舊豫算
南足柄村中沼	九十三町	一六、九五 <sup>円</sup>	川村	九十二町	一七一、五六三
岡本村炭焼所	八町	七、〇八一	北足柄村内山第一	二十四町	三九、五〇七
中井村比奈窪	五十九町	三、八〇六	川村高瀬	七町	四、八六五
南足柄村荻野	二十六町	五、六七	全岩流瀬	五十九町	五二、八九一
全弘西寺	二十五町	五、七六九	北足柄村矢倉澤	九町	六、八八一
全荻野日影	十三町	三、五二五	松田	四十五町	八四、五七〇
北足柄村平山	九町	一六、七〇〇	岡本村塚原	三十九町	三三、二九〇
全地藏堂	九町	七、二六四	足柄	八百九町	三二、七〇三

上秦野村菖蒲	山田	上秦野村柳川
十七町	二十四町	七町
二〇、〇〇〇	二五、〇〇〇	四、四六六
岡本村平和	全	全
二	三廻部	八澤
百町	十二町	八町
二七、〇〇〇	一一、〇〇〇	五、五〇〇

(二) 震災に因る道路の潰裂

町村名	道路種別	潰裂ノ箇所延長	損害ノ程度	復舊見込額又ハ 費額	損害状況
寄野	町村道	一ヶ所 三千四百間	全潰	三萬圓	崩壞
上秦野	〃	四ヶ所 五千五百四十間	半潰	五萬圓	所々崩壞
中山井	〃	五ヶ所 六千間	〃	一萬二千圓	〃
山中井	〃	五ヶ所 六千五百間	〃	二萬圓	〃
上中田組	〃	五ヶ所 二千二百間	一部全潰	二萬二千圓	〃
曾我	〃	二ヶ所 千五百間	〃	一萬四千圓	〃
金田	〃	二十ヶ所 八千間	〃	一萬八千圓	〃
松田	〃	十ヶ所 三千二百間	〃	四萬圓	〃
川和	〃	五ヶ所 二萬一千間	全潰	二萬圓	〃
清水組	〃	四ヶ所 千四百間	〃	五萬六千圓	〃
神保	〃	四ヶ所 五千二百間	〃	二萬圓	〃
三保	〃	二ヶ所 千七百間	〃	二萬九千圓	〃
北足柄	〃	〃	〃	〃	〃

計	岡本	福澤	南足柄
	〃	〃	〃
七十九ヶ所 七萬五千九百八十間	五ヶ所 六千間	二ヶ所 六百間	五ヶ所 四千間
	〃	〃	〃
三十一萬 二千四百圓	一萬三千圓	六千圓	七千四百圓
	〃	〃	〃

大部分の町村道に付ては、政府の低利資金を受け、十五年度以内には完了の見込なるも、本郡としての山間部たる寄、共和、清水、神繩、三保村の如きは多額の資金を得られざると同時に、損害の程度著し。

(三) 震災に因る橋梁其他の潰裂

町村名	橋梁ノ種類	潰裂ノ箇所及數	損害ノ程度	復舊見込額又ハ復舊費額	損害ノ狀況
寄野	木橋	六箇所	墜落	一、二〇〇	
上秦	〃	六	〃	一、五〇〇	
中井	〃	二四	〃	一、五〇〇	
山中	石木橋	九	〃	三、七〇〇	
上田	石木橋	四	〃	一、一〇〇	
曾我	石橋	九	〃	一、一〇〇	
金田	〃	九	〃	一、一〇〇	
川田	〃	三〇	〃	八、〇〇〇	
松田	石木橋	五六	〃	三、〇〇〇	

計	岡本	櫻井	吉田	酒田	福澤	南足柄	北足柄	共
							石橋	和木橋
計	三七	七	五	三	五	五	三	二〇
		〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
	六四、一〇〇	一、〇〇〇	二、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	四、六〇〇	八、四〇〇

損害の状況に付ては、大部分只兩傍の石垣破壊したるのみにて、材料の如きは再用することを得るを以て、比較的損害寡少なり。之が復舊に付ては、大部分竣工せり。

(四) 震災に因る堤塘其他の潰裂

計	川寄村	堤塘ノ種別	潰裂ノ箇所數	損害ノ程度	復舊見込額又ハ復舊費額	損害ノ狀況
	堤塘	防	七ヶ所	崩壊	三、五〇〇 <small>円</small>	崩壊後流失
	〃		十四ヶ所	〃	一八、二〇〇	〃
			二十一ヶ所		三、七〇〇	

本堤防は、震災後縣の補助を得て完了したるも、其後の出水に依り、一部破壊されたるものあり。

(五) 河水路掃除及流木の整理

水路掃除に於ては、各町村共夫役を以て整理したるも、其の延日數人員費用等知るべき材料なし。

流木に付きては、本郡の二大流域酒匂川川音川に付きては薪炭用に供するものは、各自出場して自家用の薪炭に供し、用材は役場に保管し、相當の處理を了せり。其の流木の種類、數量等知るべき材料なし。

(六) 震災に因る砂防設備其他の被害

本郡に於ては、震災以前に於て、砂防の設備及砂防工事を施行したるものなし。然れども、震災に因り、殊に砂防工事を必要と認めたる箇所左の如し。

町 村 名	砂防工事ノ箇所	損害程度	復舊見込額	損 害 ノ 状 況
寄 秦 野	百ヶ所 三百町歩	崩 壞	十五萬圓	全山殆ンド崩壞
上 井	十ヶ所 二十町歩	〃	二 萬 圓	〃
中 井	五ヶ所 十五町歩	〃	一 萬 圓	〃
山 田	一ヶ所 三 町 歩	〃	二 千 圓	〃
曾 我	七ヶ所 十五町歩	〃	一萬六千圓	〃
松 田	十ヶ所 三十九町歩	〃	五 萬 圓	〃
川 村	十一ヶ所 三十七町歩	〃	五萬五千圓	〃

計	南 足 柄	北 足 柄	三 保	清 水	共 和
百九十四ヶ所 六百四町歩	四ヶ所 六町歩	五ヶ所 三町歩	六ヶ所 百町歩	十五ヶ所 三十六町歩	二十ヶ所 三十町歩
	〃	〃	〃	〃	〃
四十九萬八千圓	五千圓	五千圓	六萬五千圓	七萬圓	五萬圓
	〃	〃	〃	〃	〃

右の内、大正十三年度に於て、縣にて砂防工事を執行せられたるものは、僅かに杉田町三千四百十九圓、上秦野村五千八百十三圓、寄村の五千四百五十二圓の費用を投ぜられたるのみにて、これが復舊に付きては、將來多大の費用と勞力を要するならん。

### 三、財政に及ぼせる震災の影響と其整理

町村は、曠古未曾有の一大災禍に遭遇し、山岳の崩壊、道路橋梁の缺潰、人畜の死傷、住家の倒潰等、其の慘狀能く筆舌の盡す所にあらず、此の際に於て、町村當局は、之れが應急の措置罹災の救助に全力を傾注したるも、町村の財政に於て當面の急を救ふべき臨時支出の餘裕を存せず、而して、各町村の多くは、町村税の地租付加税の全額及戸數割附加税の前半を徴收したるの時なるを以て、全財政に於ては、全年度經常部歳出の僅かに半ヶ年度を支持するに足るべき現状にして、應急の措置は勿論、全年度後半期に於ける諸税の徴收困難なるを以て、財政上非常の缺陷を生ぜり。故に、先づ、基本財産を填補し、經常の費用に充てしめ、臨時費用に對しては、土木費としては三ヶ年繼續

にて縣より二十五萬六千圓の補助金を仰ぎ、又一方小學校應急費として十萬五千圓、小學校以外の應急費十一萬三千圓の低利資金の融通を仰ぎ、然して町村税を漸次徴收して應急費の策を樹て、震災第一年を経過することを待たり。